

A photograph of a modern building's interior. The space is characterized by a large, multi-story glass wall that allows natural light to flood the area. To the left, there are vertical structural elements with circular perforations. On the right, a balcony with a glass railing is visible. The ceiling is white with several recessed lights. The floor is made of light-colored tiles. In the background, a large glass door leads outside, where a street and other buildings are visible. The overall atmosphere is bright and airy.

建築人

6

2014

大阪ホンマもん



まぶしい新緑と好天に恵まれた去る四月二七日、京都洛北に位置する国立京都国際会館で、「建築シリーズ二」と銘打ったあるイベントが開催された。それは、この建物を題材にドイツで制作されたドキュメンタリー映画、「メタボリズムをこえて」のプレミア上映会と座談会、そして、館内の見学ツアーという盛りだくさんの内容だった。

当日は、この映画を監督したフオルカー・ザッテルとシユテファニー・ガウスの二人と、設計者の大谷幸夫（一九二四～二〇一三年）の下で建物の増築や改修の設計を担当した大谷研究室の山本敬則、そして、家具やインテリアのデザインを担当した剣持デザイン研究所の松本哲夫の四氏が登壇し、筆者がコーディネーターを務めた。今回は、この映画からも伝わってくる建物の歴史的意味について記しておきたい。

ザッテル監督は、ドイツの原子力発電所を題材にしたドキュメンタリー映画、「アンダー・コントロール」（二〇一〇年）で国際的な高い評価を受けた。精密機械に覆われた操作室、使用済み核燃料プールや放射性廃棄物の貯蔵施設、廃炉した施設の解体作業など、黙々と作業する労働者の姿も含め、原発の日常が淡々と切り取られていく。稼働直前に計画が中止され、遊園地に転用された冷却塔の中で青空を背景に空中ブランコが回るラストシーンは切なくも美しい。

一方、今回の映画は、ドイツ政府が設立した国際文化交流機関ゲーテ・インスティトゥートの京都支部であるヴィラ鴨川の招聘アーティストとして、ザッテル監督が、ガウス氏と共に二〇一三年一月から三月まで京都に滞在して撮影した映像を中心に構成されている。おりしも、二つの映画の間に、日本では、二〇一一年三月十一日の東

日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の破局的な事故が起きていた。三・一一以後の京都で、彼らは何を見つめ、何を記録しようとしたのだろうか。今回の映画には、そうした関心が集まったように思う。

二人が京都国際会館を題材に取り上げたきっかけについては、当日の座談会で、二〇一一年に開催された「メタボリズムの未来都市展」で紹介されたこの建物に興味を抱いたこと、建物が今も美しく維持されていることに感動したこと、そして、一九九七

記憶の建築 松隈 洋

国立京都国際会館 1966 年
歴史を目撃した未来への文化遺産



南西側から見た建物外観



メインホール内観

したり、清掃や植栽の手入れなど、この施設を良好な状態で稼働させるために、きびきびと立ち動くスタッフたちの日常の様子が不思議な存在感で迫ってきたことだ。途中には、若かりし頃の大谷がスケッチを描く姿や、京都議定書が採択された当日の生々しい映像なども差し挟まれている。こうして、雪景色の中、宝ヶ池と建物を背景に鹿が横切るシーンも含め、この会議場が自然と呼応しながら時代を画する国際会議の舞台となってきた歴史が伝わってくる。

残念なことに、監督らは、大谷に会うことはかなわず、大谷も完成を待たずに逝ってしまふ。しかし、映像を見ながら、この会議場が大谷の求めた空間の質を持っていたからこそ、歴史を目撃する力を発揮できたのではないかと思えた。平山忠治の写真集『民家』（彰国社一九六二年）に触れた大谷の文章に、次のような言葉がある。

「この本を手にしたとき、日本の民家、人びとが生活の中でつくり上げてきた建築

が、どういうものであるかを、改めて思い知らされたことを記憶している。（中略）何時の頃かは定かではないが、私の想念の中に固まりつつある建築像は、日本の民家や町並みの、こうした生きざまに強く影響されたように思われる。（中略）その時の想念としての建築像は、次のようなものである。建築とは、もつと骨太く力強い存在であり、雄々しく言いわけなどしない潔いものだ。建築は、しかし、もつと優しさを湛え、人びとを抱擁する大らかな存在であり、人びとの微妙な情感にも応答する繊細さをも身につけているものだ。」（『私の中の建築』『建築文化』一九八二年十月号）

この言葉に、二〇年前の京都国際会館のコンペ時点で書かれた次の文章を重ねると、大谷の求めていたものが見えてくる。

「設計にとりかかる以前、わたくしは宝ヶ池と小高い山にかこまれた敷地写真を見て、そこに合掌造りの農家の屋根が点在する風景を連想した。（中略）もしはじめに合掌造りという、もつとも単純な形式が把握されていないかったら、次の段階も期待できなかった、とも考えられる。」（空間の組織と構造システム『建築文化』一九六三年九月号）

風雪に耐え、人びとの暮らしを守ってきた骨太で繊細な民家の造形。大谷は、そこに戦争を経て平和を取り戻した日本が国際社会に復帰する会議場の姿を重ねようとしたのだ。その思いは遠くドイツの映画監督によって見事に映像化されている。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授。博士（工芸）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

に応用し検査に実践されてきた西宮市建築指導課西原誠助氏と共に、昨年に引き続き近畿プレカット工場長風明宏氏の協力を得て、実習の充実を計ります。

日時 7月12日(土) 13:00～17:30(予定)

会場 西宮市勤労会館

費用 1,500円/日 別途資料(1,500円)を各自購入しての参加となります。

定員 26名

当日は実習のために赤鉛筆と蛍光ペン(黄・赤・橙・緑・青)をお持ちください。

問合・申込 (株) 合掌

Tel/Fax.0742-36-2929

<http://www.eonet.ne.jp/~truss/index.html>

Others

その他のお知らせ

戦争遺構を通して、厳しい基地の現状、沖縄の戦争と平和について考えます。

日時 6月21日(土) 11:00～

会場 堺市立東図書館

講師 戦争遺構研究会 代表柴田正己

問合 戦争遺構研究会

Tel.072-236-3357

第29回「住宅メンテナンス診断士講習会」住宅点検メンテナンス講習と資格認定試験CPD6単位

NPO法人住宅長期保証支援センターは「住宅メンテナンス診断士講習会」を開催します。

主催 NPO法人住宅長期保証支援センター

日時 6月26日(木) 9:25～18:00(予定)

受付 9:00開始

会場 エルおおさか 南ホール

大阪市中央区北浜東3-14

定員 100名

※先着順受付、定員になり次第締切。

申込締切 6月19日(木)

参加費 一般 29,160 円(税込)

問合 NPO 法人住宅長期保証支援センター

Tel.06-6941-8336

<http://www.hws.or.jp>

国際見本市「LIVING & DESIGN 2014」出展募集のご案内

「LIVING & DESIGN」は「住まいと暮らしのリノベーション」をテーマにビジネスとしての新しい出会いと創造の場を提供する国際見本市です。出展申込み受付を開始しています。

会期 2014年10月15日(水)～17日(金)

10:00～18:00(最終日は17:00まで)

会場 大阪国際会議場(グランキューブ大阪)

入場料 1,000円(招待状持参者、事前登録者は無料)

会期中特別企画:講演、セミナー等

詳細は、下記HPをご覧ください。

<http://www.living-and-design.com>

主催・問合

LIVING & DESIGN 実行委員会事務局

Tel.06-6210-1969 Fax.06-6210-1968

E-mail info@living-and-design.com

事務局からのお知らせ ホームページ会員名簿更新について

本会ホームページ掲載の会員名簿の内容を本年7月に更新する予定としております。

ホームページへの掲載を希望されない方は、6月20日(金)までに事務局までご連絡をいただきますようお願い申し上げます。

ホームページ会員名簿掲載事項

①氏名 ②建築士級別(正会員のみ)

③CPD登録の有無 ④専攻建築士種別

「第8回まちづくり賞」の募集(日本建築士会連合会)

(公社)日本建築士会連合会では、より身近になった市民まちづくりのなかで、建築士及び建築士会としての専門性をいかに発揮し、みごとにその役割を果たした活動を支援するとともに、他団体、地域との連携を強化し地域まちづくりのさらなる発展に資するため、すぐれたまちづくり活動等の実績を評価・表彰します。

選考対象

- ・地域における継続的なすぐれた住まい・まちづくり活動の実績のあるもの

応募

- ・応募要項、応募用紙等は、日本建築士会連合会のHPからダウンロードしてください。
- ・連合会HP第8回まちづくり賞アドレス <http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2014-03-18.html>

応募書類提出期限

- ・平成26年4月1日(火)から6月30日(月)(当日消印有効)

問合 (公社)日本建築士会連合会地域活動部「まちづくり賞」係

Tel.03-3456-2061

E-mail chiiki@kenchikushikai.or.jp

■ 本会の催し参加問合・申込先

大阪府建築士会事務局

〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5階

TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103

メール info@aba-osakafu.or.jp

HP <http://www.aba-osakafu.or.jp/>

Administration

行政からのお知らせ

平成26年経済センサスー基礎調査 平成26年商業統計調査を一体的に実施します

総務省・経済産業省・都道府県・市区町村

経済センサスー基礎調査は、我が国の事業所・企業の基本的構造を明らかにすると

お時間がとれない方はぜひご検討ください。

■課題解説・エスキース(通学講座)

日程 8/23(土) 時間 9:00～17:00

会場 大阪府建築健保会館

定員 40名(申込先着順)

受講料 会員12,000円、一般14,000円

■模擬テスト(通学講座)

日程 I :9/13(土)、II :9/20(土)

Ⅲ:9/27(土)

時間 9:00～18:30

会場 大阪府建築健保会館

定員 【各】40名(申込先着順)

受講料 【各】会員14,000円、一般18,000円

■模擬テスト(通信講座)

ご自宅への課題到着予定日

I :9/13(土)、II :9/20(土)、Ⅲ:9/27(土)

定員 【各】20名(申込先着順)

受講料 【各】会員12,000円、一般15,000円

建築士の会 東大阪 古民家再生「石切ヴィレッジ」見学会及び活動報告会

6/21 CPD2単位(予定)

東大阪市に在住又は在勤の会員の方を対象に活動している「建築士の会東大阪」では、今回、石切神社参道近くの古民家再生による「石切ヴィレッジ」の見学会を、輝建設様のご協力により開催いたします。

「石切ヴィレッジ」は、江戸中期の母屋(築260年)を中心に再生され、2012年2月にギャラリーと事務所をオープンされました。開設者である輝建設様代表取締役の小原様にご案内していただきます。

見学後、「建築士の会東大阪」の活動報告会を行います。今回も報告会に先立ち、特別講習会も予定いたしております。地域以外の会員の方のご参加も大歓迎です。報告会終了後は懇親会も企画しています。

皆様、是非ご参加ください。

日時 6月21日(土) 13:30～

集合13:30～ 見学会13:45～

活動報告会15:00～ 懇親会17:15～

集合 近鉄奈良線「石切駅」(南側改札口)

募集 30名(申込先着順)

参加費 1,000円(資料、飲物代含む)

※懇親会参加費 別途4,000円程度

※懇親会参加の有無を明記してください。

申込 社会貢献委員会

※参加証は実施1週間前に出状します。

第57回建築士会全国大会 「ふくしま大会」

10/24

テーマ 建築士の決断「ならぬことはならぬものです」

ふくしまで語ろう 建築・絆・再生

日程 10月24日(金)

会場 ビッグパレットふくしま

※交流セッション③+地域交流見学会(エクスカーション)は10月25日に実施

申込 建築士5月号P26の参加申込書に必要事項をご記入のうえ、本会事務局まで提出。

締切 7月18日(金)

大会の詳細は「建築士5月号」をご覧ください。

INFORMATION については本会ホームページにも掲載されています。

本会ホームページから予約することも可能です。【詳細は大阪府建築士会 ホームページ】<http://www.aba-osakafu.or.jp/> まで

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

国土交通省の登録を受けた登録資格者講習と同等以上の内容を有すると国土交通大臣が認める講習の認定について

本会が過去に実施した木造及び非木造の耐震診断・改修講習会が、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」に定める同等以上の資格者講習会として、平成26年2月10日に国土交通大臣の認定を受けました。

■認定された本会主催の講習会名及び開催年度

- ・既存木造住宅の耐震診断・改修講習会／平成24年度及び平成25年度
- ・既存鉄骨造建築物の耐震診断・改修指針講習会／平成8年度～平成25年度
- ・既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断・改修指針講習会／平成7年度～平成25年度

※詳細につきましては、本会ホームページをご覧ください。

本会における既存建築物耐震診断等評価業務のご案内

～平成26年1月より耐震評価業務を開始～

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の専門家で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。

公立学校施設や沿道建築物などの耐震不適格建築物について、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。

スピーディな審査を心掛けますのでどうぞご利用ください。

なお、本会は平成26年2月18日付けで、(一財)日本建築防災協会の「既存建築物耐震診断・改修等推進全国ネットワーク委員会」に入会するとともに、当委員会の耐震判定委員会に新規登録しました。

<http://www.kenchiku-bosai.or.jp/nw/> (業務内容)

耐震診断報告書の審査、評価

耐震補強計画案の審査、評価 等

(対象建築物)

- 公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。

(会員特典)

申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の割引があります。

詳細につきましては、本会ホームページをご覧ください。

一級建築士／設計製図
受験対策講習会

課題解説・エスキース 8/23

模擬テストⅠ・Ⅱ・Ⅲ 9/13、9/20、9/27

有能で意識の高い建築士の養成を目標に、実務に直結した指導を行います。今年度より模擬テストの通信講座を新設しました。通学の

建築表彰委員会は以下のような活動をしています。

1. 大阪建築コンクール(主催…本会)

本会が単独で開催している賞です。日本建築学会賞に次ぐ約六〇年の長い歴史を持ち、関西の建築アカデミズムを継承しているコンクールです。又「渡辺節賞」部門では三九才以下の若い設計者の登竜門として幅広く知られています。

又、「受賞者講演会」も開催しており、広く賞の存在をアピールするように努めています。

しかし、残念ながら諸般の事情により、昨年度から隔年開催になってし

まいました。本会会員をはじめ、在阪の建築家のモチベーションを高めるべく、できるだけ早く毎年開催に戻れるように頑張ります。

2. 大阪都市景観建築賞(愛称大阪まちなみ賞)(主催…大阪府・大阪市・本会・大阪府建築士事務所協会・日本建築家協会近畿支部、日本建築協会)

大阪の建築の主な団体が参加して、幅広く「大阪の建築」を顕彰し、府民の建築的な民度を高めて行くのが目的です。



3. 「あすなろ夢建築」大阪公共建築設計コンクール(主催…大阪府・本会・大阪府住宅供給公社)

建築学科の高校

校生や専門学校生を対象に行う設計コンクールで、実際の建築予定地が設定され、実際に公共建築が建設されるのが大きな特徴です。

4. 優秀学生表彰制度(主催…本会)

主に建築学科の学生(大学、専門学校)を表彰する制度です。学校から推薦を受けた優秀な学生を卒業式や謝恩会で表彰し、将来の「力」になって欲しいという願いを込めた表彰制度です。

これからも、ぶれない建築的な価値観を基準に、表彰のあるべき姿をしつかりと見据えて運営して行きたいと思っています。

(写真は第五九回建築コンクールの審査風景です)

建築表彰委員会から

● 今月の委員会だより ●

戦前に建てられたオフィスビルの保存再生では、丸の内ビルディング（1923/2007年）、JPタワー（1931/2012年）など東京の事例があり、関西ではダイビル本館（1925/2013年）が先駆的事例に挙げられます。ダイビル本館では意匠（時代精神）の保存再生により一歩踏み込んだ取り組みがなされています。プロジェクトに携わられたダイビルの對中秀樹さんにご紹介いただきました。

ダイビル本館の保存再生について

對中 秀樹

ダイビル株式会社 建設・技術統括部副部長
大阪出身。1965年生まれ。1988年横浜国立大学工学部建築学科卒業。1988年大阪建物株式会社（現ダイビル株式会社）入社。



ダイビル本館エントランスホール



「大ビル倶楽部」のイメージを再現した「ダイビルサロン “1923”」

■旧ダイビル本館

弊社は一九二三（大正一二）年一〇月に大阪商船、宇治川電気、日本電力の共同出資によって設立されました。旧ダイビル本館の建設は、もともと大阪商船の本社ビル建設から始まったプロジェクトということもあり、弊社の創業プロジェクトといえます。

設計監督渡辺節、製図主任村野藤吾、構造設計内藤多仲という最強の布陣でスタートし、一九二四（大正一三）年二月に大林組と工事請負契約を締結、一九二五（大正一四）年九月に完工しました。外観はオリエント風のネオロマネスク様式で内外の装飾はおおむね簡素ながらも、要所に彫刻を施して建物全体を特色づけていました。特に中央部には帝展審査員大國貞蔵作の「鷺と少女の像」が施され、さらにその左右には兵庫県播州産の黄竜山石による灯籠と彫刻柱が並びビルの格調を高めており、またエントランスホールの壁は日華石、床はタイル、天井は石膏装飾といった材料により華や



完工時の旧ダイビル本館

かなデザインに仕上げられていました。構造は関東大震災の教訓を踏まえ、大阪で初めて耐震構造を採用しており、当時から耐震安全性を重要視していたことがわかります。

■中之島三丁目共同開発がスタート

一九八九（平成元）年頃には旧ダイビル本館は建物自体の老朽化と設備の陳腐化が進んでおり、関西電力としても隣接する旧関電ビルディングの老朽化が顕著となっていたことから、弊社は関西電力に対し両ビルの建替えを提案、土地建物所有者である関電不動産を含めた三社で協議を進め、一九九七（平成九）年八月に共同開発の基本協定を結び正式にプロジェクトがスタートしました。建替えのスキームは、まず一期工事として関電ビルディングを中之島変電所跡地に建設、二期工事として旧関電ビルディングの跡地に中之島ダイビルを建設し、三期工事でダイビル本館と中之島四季の丘を整備するというものです。

■デザインの継承に向けて

共同開発の決定時点では低層部に旧ビルの外観を復元することは決まっていませんでした。計画が進むにつれ多くの取り壊しを惜しむ声をいただき、弊社としてもダイビルのルーツともいえるこの建物をどう建て替えるか検討を重ねた結果、ダイビルアイデンティティーとしてデザインを継承することを決定しました。

ダイビル本館の設計は当街区のマスタープランから携わり、中之島ダイビルの設計も依頼した日建設計様にお願いし、二〇〇八年一〇月から基本設計を開始しました。調査結果をもとに建材の再

ルとして再生することはダイビルにとって最も重要な課題です。そのために低層部の外観は当時のままのレンガ積み八階建てとしながら階高の調整により内部は六階とし、十分な階高を確保することで最新のビルに見合った計画としました。一方、高層部はガラスカーテンウォールにより低層部を引き立たせる現代的なデザインとし、さらに石材ルーバーをつけることで中之島ダイビルとの調和も図っています。また、河川水利用の地域冷暖房の採用、中之島四季の丘における十分な緑化、自然換気システムの導入など、建材の再利用以外にもさまざまな環境への配慮を行っており、その成果が認められ「CASBEE 大阪 OF THE YEAR 2013」最優秀賞を受賞しました。

さらにBCP対応として、制振構造の採用やビル用非常用発電機による貸室への電源供給（三〇時間）なども行い、最新鋭のビルとして生まれかわることができたと考えています。

利用方針を決定し、地上解体工事と並行して実施設計を進め二〇一一年二月から新築工事に着手、昨年二月に竣工し、七月にはグラントオープンを迎えることができました。

■建材の再利用について

旧ビルの雰囲気復活させるために出来る限り建材を再利用することを検討しました。外壁を構成する主な材料はスクラッチレンガ、石材レリーフ、テラコッタの三種類です。

一 スクラッチレンガ

外壁の大部分を占めておりなんとか再利用したいと考え、まずレンガを取り外せるかどうかを調査し、次にレンガの物性試験を実施して現行の規格と同等であることを確認しました。そしてすべてのレンガを取り外し、ひとつひとつバラバラにしたあとモルタルを除去し、中圧洗浄してきれいなレンガに戻しました。取り外し作業に約二ヶ月、モルタル除去・洗浄に五ヶ月というたいへんな時間を要しましたが、敷き並べてみると思っていた以上に色調に幅があり、旧ダイビルの



ひとつひとつ取り外し、モルタル除去後洗浄した

■ダイビルサロン“1923”

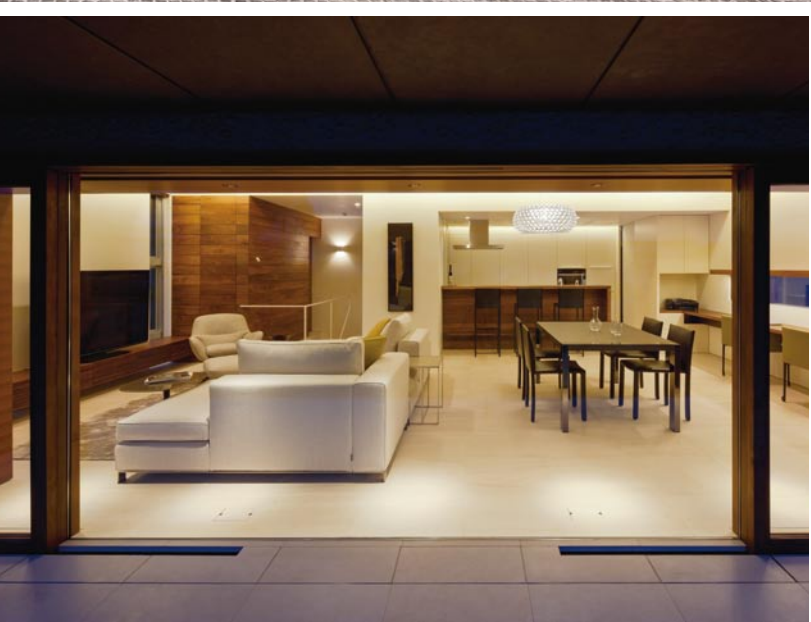
昨年は弊社にとって創立九〇周年ということもあり、本館一階に「ダイビルサロン“1923”」を設置しました。旧ビル八階にあった社交場「大ビル倶楽部」のイメージを再現し、頂部テラコッタや旧ビルで使用されていた装飾品などを展示しています。また、デジタルアーカイブも設置し、寛ぎながら弊社の歩みや中之島の歴史に触れていただける空間としてたくさんの方々にご利用ご覧いただければと思っています。

■最後に

このプロジェクトは旧ダイビル本館を再生したいというわれわれの思いを形にするために並々ならぬ情熱で取り組んでいた日建設計様、大林組様ほか多数の方々のおかげで成し遂げることができました。心より感謝いたします。



ダイビル本館 外観



敷地は兵庫県西宮市に位置し、南西部を流れる夙川、周辺の公園には桜並木が広がる閑静な住宅地である。
道路に対し圧迫感を与えないよう建物のヴォリュームを敷地奥に設定し、各階をズラして威圧感を抑えるよう配慮した住宅である。
外壁仕上はモルタル跳付けとし、以前からこの地にあったかのようなヴァナキュラーな雰囲気を与えた。植栽が配された長いアプローチの奥に差込む優しい光に導かれるように玄関がある。
最上階は夙川を一望できる大きなテラスとそこに連続するようにLDK空間が広がっている。

所在地：兵庫県西宮市
用途：専用住宅
竣工：2011.11
構造設計：土屋設計
構造規模：地下RC造1階
地上木造2階
敷地面積：198.76㎡
建築面積：79.49㎡
延床面積：229.56㎡
写真：松村芳治



この家は明治の終わりに建築された土蔵造りの蔵と、それに続いている納屋を改修した住まいである。母屋に連続して下屋がかけられた大きな軒下空間があり、この軒下空間の透明感を損なわないよう、透明なガラスボックスの玄関を新設している。格子戸をあけるとそこは、骨組みが露出した一室空間で、梁や柱を現わした吹き抜けで変化のある空間となっている。力強い梁や柱で構成されていた蔵部分の一階は、それらを生かして琉球畳敷の和室にしている。外観は従来の形を損なわないように努め、アルミサッシの部分をできるだけ目立たないような処理をし、周辺環境に対して配慮している。
(吉村篤一)

所在地：京都市左京区
用途：専用住宅
竣工：2013.05
構造規模：木造
敷地面積：317.30㎡
建築面積：55.85㎡
延床面積：75.63㎡
写真：大島勝寛

第 59 回大阪建築コンクール入賞発表

主催／公益社団法人大阪府建築士会　後援／大阪府・公益財団法人関西・大阪 21 世紀協会

●大阪府知事賞

日本圧着端子製造株式会社

岸下真理　岸下和代
都倉泰信　稲垣　誠

楡の木テラス

石井良平

中之島フェスティバルタワー

江副敏史

●渡辺節賞

斑鳩の家

東大谷高等学校泉ヶ丘キャンパス

中山大介

國本暁彦

趣旨

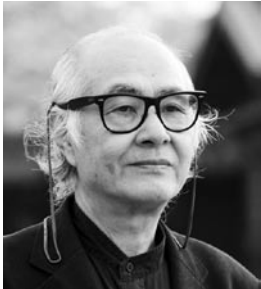
建築士はその職責を通じて地域社会の発展に寄与し、建築美を通じて建築文化の向上、ひいては地域文化の振興にも寄与していく必要があり、その責務は重大であります。

大阪建築コンクールは、建築士と社会とのかかわりを通じて建築作品を評価し、その優れた実績をたたえ、建築作品の設計者である大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の設計者を表彰します。同時に行う渡辺節賞については、新しい建築文化の原動力となる若い優れた設計者をたたえ、さらなる発展を望むものであります。

募集範囲

2009年1月1日から2013年12月31日の間に竣工し、完了検査済証の交付を受けた建築物
＊建築確認申請不要物件は完了検査済証不要
竣工年月日は工事完了時

審査経過並びに総評



審査委員長
本多 友常

昭和29年度(1954)より毎年開催されてきた当建築コンクールは、今回から1年おきに開催されることとなった。その結果コンクールとしてのハードルは相対的に高まり、建築に求められる期待も高度なものとなった。その結果応募作品は社会的に影響力の高いビッグプロジェクトも多く、それらの評価のクリテリアをどこにおくべきかについて、議論は百出し多岐に亘った。その過程において、審査という行為は、現代における建築のあり方に対

●大阪府知事賞部門

対象建築：建物の種類・規模は問わない

建築位置：近畿二府四県

応募資格：設計者が大阪府建築士会正会員
または大阪府在住もしくは在勤の者

●渡辺節賞部門

対象建築：建物の種類・規模は問わない

建築位置：近畿二府四県

応募資格：設計者が大阪府建築士会正会員
または大阪府在住もしくは在勤の者
完了検査済証発行日現在39歳以下

審査委員会

委員長　本多友常（摂南大学 教授）

委　員　長坂　大（京都工芸繊維大学 教授）
※50音順

濱田　徹（鹿島建設㈱ 関西支店専任役）

平田　真（大阪府住宅まちづくり部公共建築室室長）*

松隈　洋（京都工芸繊維大学 教授）

萬田　隆（tmsd萬田隆構造設計事務所）
大阪産業大学

* 3 月 31 日で大阪府を退職のため、第1次まで審査

するメッセージを送ることでもあることが、強く意識された。

審査の観点は多面性を帯びたが、コンセプトと結果の間の筋道が厳しく問われることとなった。何をどのように評価し、受賞作品として推薦する理由は何であるか、あるいは推薦しない理由は何であるかが率直に議論された。その結果最終段階での絞込みにあたっては、投票による決定に頼ることなく、各委員の観点とその評価をめぐって意見を出しつつ収束への道を辿ることとなった。

議論の主題は、「保存問題に端を発する都市の持続性と継承のあり方」、「立論の立て方と建築の整合性」、「都市空間への提案性」、「周辺環境との手の結び方」、「新たなビルディングタイプへの挑戦」等々であり、総括的には建築物本体の作品性を超えて、周辺環境との関係性のあり方、生成された意味について、評価の光が向けられたとい

審査

審査委員会 4 回

●第 1 次審査

応募作品（大阪府知事賞部門：42 点
渡辺節賞部門：15 点）より、書類、写真によって、知事賞部門:6 点、渡辺節賞：3 点を選考

●第 2 次審査

第1次審査通過作品について現地審査2日間

●最終審査

大阪府知事賞部門：3 点　渡辺節賞部門：2 点を決定

表彰式・受賞者講演会

●表彰式

とき　平成 26 年 5 月 28 日（水）
　　本会定時総会式典席上

会場　ホテル大阪ベイタワー・4 階

●受賞者講演会（後援未定）

日時　7 月 18 日（金）　18：30 ～

会場　TOTOテクニカルセンター大阪2階会議室

える。

第一次審査では知事賞部門42点、渡辺節賞部門15点につき提出書類を閲覧し、現地審査に残すべきものを選定した。選定方法は各人が数票をもって推薦投票するものを選出し、1票でも入ったものについては推薦理由を尊重しつつ、見逃しのないように意見交換され、最終的に知事賞部門候補6点、渡辺節賞候補3点を現地審査対象とすることとなった。

「中之島フェスティバルタワー」は「ダイビル本館」とともに、都市景観の骨格を形成する大プロジェクトとして注目され、旧館の存在感が大きかっただけに、歴史的持続性の課題が重く課せられていた。

しかし「ダイビル」については、最後までオーセンティシティ(真実性)に対する建築的

所作としてのアプローチが議論を沸騰させ続けた。元在った場所を移し、復元的手法を駆使した再生は、都市に於ける場の意味と、建築としての歴史的持続性においてどこまで評価すべきか、設計者が関与できる範囲の事情は十分に理解しつつも、最終的にはこれを是とするメッセージは、控えるべきではないかとの判断に至ることとなった。

一方「中之島フェスティバルタワー」は、その課題をあっさりとすり抜け、現代における高層複合建築のひとつのあり方を示した点で、今日的シルエットを生み出した点が評価された。一般的に現代の高層建築物はカーテンウォールなどの単一の表層によって包まれ、結果的に巨大さの表現として林立する。ここでは旧ホールのボリューム感を利用し、複合的要素を率直に積み重ねた結果が、今日的都市の様相として外観に建ち現れ、遠景、中景にも応答する建築として成立している。

「日本圧着端子製造株式会社」は、各階の床を4つに分割しスキップさせたもので、これをらせん状に繋ぎ合わせて積み上げている。そこに発生しているオフィス空間は立体的にずれた床が重なり合い、自分の位置を

把握しにくい錯覚をおぼえるが、そこに配置されている家具やデスクのオフィスレイアウトが、場の安定性を支えている。このように全館を一体の空間として使いこなす意志は、発注者の理解と熱意も一体となったものであり、建築の幸せな造られ方を示しており、オフィスとしてのビルディングタイプを拡張することに成功している。

「楡の木テラス」はローコストの賃貸住宅であるが、6個の平面をずらすことにより住まいとしての機能と生活の質を確保しつつ、まちなみへの軽妙な柔らかさを生み出している。前面に位置する住戸の店舗を可能とした使い方と、奥に位置する住戸のニーズの違いにも配慮しつつ、まちなみへの接続の仕方、スケール感、素材の使い方も含めて、きわめて高い評価を集めたものである。

渡辺節賞

現地審査に残ったものは3点あり、設計者としての力量はともに三者三様に高いポテンシャルを感じさせるものであった。　その中で浮上した判断のよりどころは、「場」の生成において気負いを感じさせない静かな作法に

大阪府知事賞　日本圧着端子製造株式会社

設計者　岸下真理、岸下和代、都倉泰信、稲垣誠（Atelier KISHISHITA + Man*go design）



撮影　絹巻　豊

建築位置／大阪市中央区

建物用途／事務所

建　築　主／日本圧着端子製造株式会社

施　工　者／鹿島建設株式会社 関西支店

竣工年月／ 2013 年 6 月

構　造／ S 造、一部 SRC・RC 造

階　数／地下 2 階　地上 8 階

敷地面積／ 1,226.16㎡

建築面積／ 939.01㎡

延床面積／ 8,245.23㎡

〈審査講評〉新しいオフィス空間の在り方が見事に示されている。ふんだんに使用された木材は空間に暖かみを与え、透明で広々とした階段室とその周囲のスキップフロアは、社員同士の活発なコミュニケーションを誘発させている。構造システムもうまくマッチしており、構造設計者の力量を感じることができた。このようなオフィス空間の提案を受け入れた施主も含め、関係者一同に敬意を表する。（萬田審査委員）

あった。

中山大介氏の「斑鳩の家」と國本暁彦氏の「東大谷高等学校泉ヶ丘キャンパス」はともに置かれた環境において、存在を強く主張するものではない。しかし空間の特異性を突出させないことが、結果的に環境の質に関与する巧妙な手法となっていたとも言える。

「斑鳩の家」は広い農地に囲まれ、白い面を外壁にまとい、小さく、小さく、しかしそれでも凛として気品を保ち、住まいとしての力強さを放っていた。昔から存在していたかのような普通の家としての存在感は、内部の居心地の良さと相まって家のあり方を静かに主張していると感じられた。

「東大谷高等学校泉ヶ丘キャンパス」は多数の教室を襲状に折り曲げ、配置していくことで中庭を生み出し、回遊性を獲得している。これにより校外からは学生達の見え隠れが、ほどよい接触度として制御されており、地域とのつながり方の配慮がほどこされている。

以上の評価により、2年おきのコンクールとなったことに鑑み、今回は小規模な住宅と、大規模な校舎の設計者を、ともに渡辺節賞として推薦することとなった。



前　：岸下和代　後左：岸下真理
後中：稲垣　誠　後右：都倉泰信
事賞「甲陽園目神山の家」／
2013年 第12回日本建築美術工芸協会芦原義信賞「日本圧着端子製造株式会社」／2014年 第17回木材活用コンクール林野庁長官賞「日本圧着端子製造株式会社」

岸下和代
1970年生まれ／1993年 金沢工業大学工学部建築学科卒業／1993～1996年 金沢計画研究所／2001年 Atelier KISHISHITA共同設立 [主な建築作品と受賞歴] 岸下真理と同じ

都倉泰信
1972年生まれ／1995年 金沢工業大学工学部建築学科卒業／1995～1996年 若林廣幸建築研究所／1997～2001年 内田建築設計室／2001年10月 Man*go design and Architect設立／2010年 株式会社Man*go designに改組 [主な建築作品と受賞歴] 2008年 2008リモデルスタイルコンテスト 審査員奨励賞「岡本ハウス」／2008年 第1回JIA近畿KIA釜山日韓若手建築家workshop優秀賞「重層町屋」／2013年 第12回日本建築美術工芸協会芦原義信賞「日本圧着端子製造株式会社」／2014年 第17回木材活用コンクール林野庁長官賞「日本圧着端子製造株式会社」

稲垣　誠
1980年生まれ／2002年 近畿大学理工学部建築学科卒業2004～2007年 和以貴建設株式会社／2008年 Man*go design参画 [主な建築作品と受賞歴] 2013年 第12回日本建築美術工芸協会芦原義信賞「日本圧着端子製造株式会社」／2014年 第17回木材活用コンクール林野庁長官賞「日本圧着端子製造株式会社」

大阪府知事賞 楡の木テラス

設計者 石井良平（石井良平建築研究所）



建築位置／四条畷市
建物用途／長屋（賃貸住宅）
建 築 主／松井典子
施 工 者／株式会社林建設
竣工年月／2012 年 2 月

構 造／W 造
階 数／地上 2 階
敷地面積／431.93㎡
建築面積／217.38㎡
延床面積／426.72㎡

撮影 多田ユウコ

石井良平
1955年生まれ
1979年 北海道大学工学部土木工学科卒業
1983年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
1983～1995年 株式会社坂倉建築研究所大阪事務所
1995年 石井良平建築研究所設立
2002～07年 鳥取環境大学環境デザイン学科非常勤講師
2006～13年 神戸芸術工科大学環境・建築デザイン学科 非常勤講師
2007年～ 大阪工業大学空間デザイン学科 非常勤講師
〔主な建築作品と受賞歴〕
1998年 東条湖の山荘
2000年 浜寺公園の家
2000年 菜園と生きる家 第1回「大地に還る住宅」設計提案競技優秀賞
2002年 豊中文化幼稚園
2013年 楡の木テラス 第5回 建築人賞

〈審査講評〉単純に並列しても成り立つ長屋を互い違いにずらすだけで、密集市街地の新しい空間ボリュームの提案となっている。ずれによってさりげなく分割された敷地内の屋外空間は、親密なスケール感と繊細なプライベート／パブリックの関係を生み出している。一見、単純で形式的にもみえる空間分節の手法だが、敷地の周辺状況や寸法感覚を的確に捉えた設計者によって、優れた集合住宅となっている。

（長坂審査委員）

大阪府知事賞 中之島フェスティバルタワー

設計者 江副敏史（株式会社日建設）



建築位置／大阪市北区
建物用途／本社ビル、劇場、事務所
建 築 主／株式会社朝日新聞社
施 工 者／株式会社竹中工務店
竣工年月／2012 年 10 月
構 造／SRC 造・S 造・RC 造
階 数／地下 3 階 地上 39 階
敷地面積／8,150.09㎡
建築面積／5,410.00㎡
延床面積／146,054.00㎡

撮影 古田雅文

〈審査講評〉長年親しまれてきた旧フェスティバルホールが、新たな複合高層ビルとして再生された。低層階に巨大な大空間を擁し、その上部にセンターコアをもつオフィスビルを載せるタイトな与条件を編成したものであるが、立面構成の分節化により、往年の中之島の雰囲気を受け継ぐ品位を保っており、そこに投入された設計から施工に至る技術力の集約が、新たな都市景観の生成に寄与している。（本多審査委員長）

江副敏史
1957年生まれ
1980年 京都大学工学部建築学科卒業
1980年 日建設入社
現在 同社フェロー役員デザインフェロー
〔主な建築作品と受賞歴〕
2008年 福山市中央図書館（日本建築学会作品選奨、日本建築士会連合会賞、JIA中国建築大賞）
2006年 大阪弁護士会館（日本建築学会作品選奨、BCS賞、JIA関西建築家大賞）
2005年 兵庫県立芸術文化センター（日本建築学会作品選奨、BCS賞）
1999年 神戸国際会館（日本建築学会作品選奨）
1995年 大阪ワールドトレードセンタービルディング（日本建築学会作品選奨）

渡辺節賞 斑鳩の家

設計者 中山大介（中山建築設計事務所）



建築位置／奈良県生駒郡斑鳩町
建物用途／一戸建て住宅
建 築 主／廣瀬智也
施 工 者／壺工舎
竣工年月／2012 年 3 月

構 造／W 造
階 数／地上 2 階
敷地面積／279.66㎡
建築面積／67.24 ㎡
延床面積／121.68㎡

〈審査講評〉心洗われる小さな木造の住まいだ。敷地は法隆寺の五重塔を望むのどかな田畑の中にあり、そこに 7.8 m 角の平面と燻瓦の方形屋根を載せた延 120㎡ほどのヴォリュームが置かれたシンプルな造形である。だが、住まいが備えるべき条件に過不足なく応えつつ、研ぎ澄まされたプロポーション感覚によって、比類ない、しかしどこまでも居心地の良い凜とした空間が実現している。建築の原点を見つめようとする姿勢に共感が集まった。

（松隈審査委員）

渡辺節賞 東大谷高等学校泉ヶ丘キャンパス

設計者 國本暁彦（株式会社竹中工務店）



撮影 稲住泰広

建築位置／堺市南区
建物用途／学校
建 築 主／学校法人 大谷学園
施 工 者／株式会社竹中工務店
竣工年月／2013 年 3 月

構 造／RC 造・S 造・SRC 造
階 数／地上 5 階＋塔屋
敷地面積／15,502.59㎡
建築面積／5,273.21㎡
延床面積／14,142.05㎡

〈審査講評〉地形に馴染みながら雁行する建物ボリュームは、フロアラインを走る小底により輪郭を引き締められると同時に水平性が強調され、伸びやかなファサードを形成している。片廊下＋回廊構成により内と外を巧みに編み込んだプランニングと素材を生かしたデザインは、風が通り抜けるさわやかで切れ味のよい建築に結実した。中庭の作り込み等やや残念な部分もあるが、作品全体をまとめた設計者の力量を評価し今後の展開に期待したい。（濱田審査委員）

中山大介
1978年生まれ
2001年 大阪市立大学卒業
2003年 京都府立大学大学院修了
2005～2010年 HTAデザイン事務所
2010年 中山建築設計事務所設立
現在 摂南大学、京都橘大学、大阪工業技術専門学校 非常勤講師
〔主な建築作品〕
2012年 斑鳩の家
2014年 夕陽丘の家



堺市立健康福祉プラザ

— 障害者の方が生き生きと“ふれあい”“語らい”“住まう”場所 —

本施設は身体障害者福祉センターA型、重症心身障害者（児）対応施設及び政令指定都市機能を併設した都市型の総合的な障害者福祉センターである。障害のある方の多様な特徴に配慮した施設整備を行い、地域拠点として憩いの場・コミュニケーションの場を提供することを意図している。

— 壁面緑化を積極的に活用した“自然活力”創出プラザ —

計画地は堺市の中心部に隣接し、北に仁徳陵、南に履仲陵を望む豊かな緑と住宅地に囲まれており、東に大仙公園、北・西は閑静な住宅地に隣接した立地である。外観はこうした立地を活かしながら、Low-eガラスによるシンボリックなカーテンウォールを中心として、仁徳陵や大仙公園に呼応したデザインを意図して壁面緑化を積極的に活用している。また、杉板型枠、左官調仕上材など再生材や自然素材を使用し、太陽光発電パネルをキャンपीとして採用、周辺環境との調和を図りながら新たなまちの景観の創出を図っている。

— 周辺環境と調和した光と緑の生き生きプラザ —

仁徳陵に隣接した緑豊かな立地を活かし、壁面緑化や屋上緑化を積極的に建物デザインに取り入れることにより環境保全に対する配慮を広く市民に啓発できる施設を提供している。

また、生き生きとした緑は健康福祉プラザを利用する方や地域の方々へ生命の息吹と躍動感を日々の活力として提供することを意図し、施設づくりや景観づくりの核となっている。

撮影：藪内正直（株伸和） 第33回大阪都市景観建築賞緑化賞受賞作品



■建物データ

建築主：堺市
設計：梓設計・高橋建築設計事務所設計共同体
施工：銭高・東レ・大井建設工事共同企業体（建築）
所在地：大阪府堺市堺区旭ヶ丘中町4-3-1
主要用途：児童福祉施設等（身体障害者

福祉センターA型+重症心身障害者（児）対応施設+政令指定都市機能）
敷地面積：8,302.10㎡
建築面積：4,475.67㎡
延床面積：17,350.58㎡
構造・階数：SRC+RC一部S造、地下1階、地上4階